学校紹介誌　令和８年度　前期号

なかむらとくべつしえんがっこうだより

横浜市立中村特別支援学校　　交流人権部　　２０２６年１０月

本校では、中村小学校との「なかよし交流」をはじめ、行事交流や副学籍交流、地域との交流など、様々な交流活動を行っています。交流活動を通して、子どもたちは多くの人と関わりながら、互いを知り、認め合い、人とのつながりを広げています。本号では、前期に行われた交流や子どもたちの様子、後期の予定などについてご紹介します。

副学籍校交流

「もっと知りたい、もっとなかよく」　　間門小学校　教諭　東田



昨年度の交流会が楽しかった思い出として残っていたようで、「やったー！」と声を上げるなど、今年度の交流を心待ちにしている子どもたちが多く見られました。最初のレクリエーションでは折り紙を行い、一緒に紙をちぎったり、のりで貼ったりしながら協力して活動する姿が見られました。続いてのじゃんけん列車では、教室の外に出た友達を追いかけて「一緒にやろう。」と声をかける場面もあり、みんなで楽しみたいという温かい気持ちが伝わってきました。また、自己紹介でサッカーが得意だと聞くと、「今度は一緒にサッカーをしたいな。」と話す子もおり、早くも次回の交流を楽しみにしている様子が見られました。交流を通して、互いに親しみを深める貴重な時間となりました。



「ようこそ、〇〇ちゃん歓迎会」　　六つ川西小学校　教諭　清水

子どもたちに交流の予定を伝えると、「いつ来るの？歓迎会をしよう！」と喜ぶ姿が見られました。学級での話合いでは、〇〇さんと仲よくなるためにはどんな遊びがよいか、何を紹介したいかを一生懸命考え、準備を進めていました。６月３０日の交流当日は、ばくだんゲームで自己紹介をしたり、係活動を披露したりした後、みんなで昔遊びを楽しみました。〇〇さんも次第に緊張がほぐれ、お手玉の感触の違いを楽しむ様子が見られました。交流後も、「次はいつ来るのかな？」と、再び会える日を心待ちにしています。これからも互いの様子を伝え合いながら、交流を深めていきたいと思います。



「副学籍交流を通して」中村特別支援学校　保護者

小学校４年生の息子が中村特別支援学校に入学した時、兄と姉は副学籍校に在学しており自分たちの通う学校に来ることを喜び楽しみにしていました。交流当日は、中休みに〇〇がいる支援学級に、姉も兄もお友達をたくさん連れてきてとても嬉しそうに、誇らしげに３人とも先生やお友達に自慢していました。４年目の今年は、兄も姉も中学生になり居ませんが、小学校へ行けば「〇〇さんこんにちは！」と挨拶してくれるお友達がいて、お互いの学校の紹介をしあって支援学校のことに興味をもってもらったり、ゲームではボールをうけとり投げるお手伝いをしてくれたり、握った手をずっと離さずにいてくれたり、あたたかく有意義な時間を過ごしています。副学籍交流を通して、同じ教室にいること、同じ地域で生活して商店街や駅ですれ違ったり、挨拶を交わしたり、当たり前の居場所がより居心地のいいものになっています。〇〇のやりたいや、できるを尊重し交流の場を作ってくださる先生方に感謝しています。

行事交流（中村オリンピック）

特別支援学校の友達と一緒に中村オリンピックを行いました。各学年の演技や応援合戦、聖火リレー、大玉送りなど様々な競技や演技を通して交流を深めることができました。子どもたちは自然と声を掛け合い、励まし合いながら笑顔で活動し一緒に喜びを分かち合う姿が多く見られました。子ども達にとって協力することや相手を大切にすることの素晴らしさを実感できる一日になりました。

中村小学校　教諭　巴

今年度も中村小学校と合同で運動会に取り組み、練習の段階から両校の子どもたちが一緒に活動しました。回を重ねるごとに笑顔が増え、自然に声を掛け合ったり、ハイタッチをしたりする姿が見られました。本番では互いに応援し合い、あたたかな一体感に包まれました。今回の交流を通して深まったつながりを、今後の交流にも生かしていきたいと思います。

中村特別支援学校　教諭　池田

地域交流（Y.S.C.C.）

本校では、地域に根差した活動を展開するサッカークラブ「Y.S.C.C.横浜」と定期的な交流活動を行っています。交流では、選手によるドリブルやリフティングの披露、ボールを使ったふれあい活動、応援旗づくりなどを通して、児童生徒と選手が楽しい時間を共有しています。

交流を通して、児童生徒は選手とのふれあいやボールを使った活動を楽しみながら、スポーツの魅力や人と関わる喜びを感じています。一人ひとりが自分なりの方法で選手と関わる中で、人とのつながりやコミュニケーションの大切さに触れる機会となっています。

選手の皆様も、児童生徒一人ひとりの表現やコミュニケーションに触れ、多様性への理解や共生社会について学ぶ機会となっているようです。実際に交流へ参加した選手からは、「子どもたちの成長を感じてうれしかった。」「笑顔やしぐさを通して心が通じ合う瞬間がたくさんあった。」「もっと多くの人にこの景色を見てほしい。」といった声も寄せられています。

交流の様子や選手の思いは、Y.S.C.C.横浜の選手による SNS でも度々紹介されており、本校の児童生徒との関わりが選手の皆様にとっても大切な学びや気付きにつながっていることが伝わってきます。スポーツを通して生まれた温かなつながりは、互いを理解し合い、支え合う地域づくりへと広がっています。

各学部、分教室の交流の様子

小学部　低学年　小ＡＢクラス

４月から７月までのなかよし交流では、爆弾ゲームや七夕飾り作り、とろとろ絵の具の活動に取り組みました。七夕飾り作りでは、本校の児童の好きな色の折り紙を選んでくれたり、作った飾りを友だちと一緒に笹につけたりしました。とろとろ絵の具の活動では、絵の具の色を決める際に友だちが選択肢を示し、それに本校の児童が応えることで、子ども同士で気持ちを伝え合う場面が見られました。また、みんなで一つの作品を作るグループもありました。交流を重ねる中で、友だちと一緒に活動する楽しさを感じることができました。

小学部　中学年　小Ｃクラス

４月に「はじめましての会」を行いました。ゲームを通してお互いに自分の好きなことを伝えました。中村オリンピック練習では、３・４年生と一緒にソーラン節を踊りました。中村小学校の３、４年生が練習に来てくれると、小Ｃの子どもたちの表情もぱっと明るくなりました。仲間と一緒に体を動かす楽しさや、中村小の元気なパワーを感じながら活動することができました。他にも、ポプラッチの作成や、図工の作品発表、クイズ大会を行いました。後期もたくさんの交流を行う予定です。

小学部　高学年　小ＤＥクラス

４月は５・６年生と「一年間よろしくの会」を行いました。自己紹介ゲームでは、サイコロを転がし、出た目によって自分の好きな食べ物やスポーツ、場所を伝え合いました。中村オリンピックの練習では、一緒に『ウィング』と『№１』のダンスを踊りました。それぞれのよさを生かして、演技を作りあげていきました。一緒に踊ったあとは、達成感と満足感で満ち溢れた表情が見られました。また、５月には５年生と田植えを行いました。一緒に植える位置を確認したり、苗を手渡したりして、協力しながら植えることができました。

中学部

平楽中学校との交流を始めて３年目になります。７月は図書委員会のみなさんが来校し、絵本の読み聞かせをしてくれました。本校の書庫にもある『かお かお どんなかお』では、さまざまな表情のお面を作り、見せながら読んでくれました。また、『ランパンパン』では、「ランパンパン」という繰り返しのリズムを太鼓で表現し、楽しい雰囲気をつくってくれました。折り紙で作った太鼓のプレゼントも素敵でした。その後は、本校の生徒が音楽の学習で取り組んでいた和太鼓を使い、平楽中学校のみなさんと一緒にリズムをとりながら、楽しくセッションをしました。また、中村オリンピックで発表した『りずむにのって』をやり、生徒全員が大きパラバルーンの中に入り、風を感じながら一体感のある時間を過ごしました。最後は、一人ひとりがタッチをしながら感謝の気持ちを伝え合い、心温まる交流となりました。

高等部　高ＡＢクラス

５月２１日、高等部ではY.S.C.C.の選手の皆さんと応援旗作りを行いました。今回制作した応援旗は、今後、小学部から高等部まで全校児童生徒が関わりながら完成を目指していく作品です。当日は白い布を広げ、絵の具の入った振り子を勢いよく振り回して模様を描きました。生徒たちは絵の具まみれになりながらも、Y.S.C.C.の選手の皆さんと一緒に活動を楽しみました。チームカラーである水色を基調とした模様が布いっぱいに広がり、迫力のある作品となりました。

活動の中では自然と会話が生まれ、一緒に道具を使って色を付ける姿が見られました。YSCC の選手の方からも、「みんながニコニコしながら一緒に色付けをして楽しかった。」「一緒に作業することで自然に打ち解けることができた。」といった感想が寄せられました。生徒たちは応援旗作りを通して地域の方々と関わりながらコミュニケーションを図り、協力して一つの作品を作り上げる貴重な経験をすることができました。

分教室





なかよし交流は中村小学校の個別支援級と分教室の小学部が交流をしています。場所が離れているため動画でやり取りをしながら、今年度も、５月に行われた中村オリンピックで使用する応援グッズ作りを通して交流しました。個別支援級の児童が使う「応援うちわ」の台紙を、分教室の児童が絵の具やローラーでアートするのです。その台紙の数なんと１４４枚！分教室の中学部と高等部の先輩たちにも協力を依頼すると、快く引き受けてくれました。中村オリンピックの後、個別支援級から「ありがとう」の動画が届き、分教室みんなで嬉しくなりながら鑑賞しました。

分教室では他の学校とも交流をしています。今年度は日野南中学校、日野中央高等特別支援学校、港南台ひの特別支援学校との交流を計画しています。分教室のある横浜医療福祉センター港南に来てもらったり、リモートで繋いだりしながら、これからも交流を重ねていきます。